

# 委員会レポート

## 広報広聴常任委員会

### 議会報告会開催

町民に対する議会の説明責任を果たすとともに町民の意見を聴取して議会の政策提言に反映させるため、令和5年12月に制定された議会基本条例に基づき、令和6年5月17日14時より、学びいな研修室において3月定例会の議会報告会を行いました。

会場には14人の方が来場され、参加者から多くの質疑や意見をいただきました。



いただいたご意見は一般質問などで取り上げ、町に声を届けました。

### 議会報告会でいただいた質疑・ご意見など

- ・猪苗代は観光地の町。空き家対策、取り組みの状況は
- ・子ども達（園・小・中）の送迎をしている。中学生のスクールバスを要望したい
- ・人の流れをまちなかへ、活性化につなげて
- ・町の今後を話し合い、考えをキャッチボールできる報告会に ※複数意見
- ・湖水が見えないから木を切ってほしい
- ・野口記念館の修学旅行生の状況は
- ・猪苗代駅前の活性化を
- ・町立病院のこと
- ・議論の内容も知りたい ※複数意見

### 一般会議募集について

町民の希望に柔軟に対応するため、町民と議員の意見や情報の交換の場として一般会議を設置します。

5人以上のグループ・団体とし、希望日の45日前までに所定の一般会議申込書に記入のうえ、議会事務局へお申し込みください。

詳細につきましては、議会事務局(0242-62-5666)までお問い合わせください。

お知らせ：今号より、副委員長は五十嵐ミエ子議員になりました。

## 総務文教常任委員会

## 防災道の駅に係る計画進捗状況

**【概要】** 猪苗代道の駅は、県地域防災計画では復旧復興の基地となる広域的な活動拠点として位置づけられている。また、自衛隊などの救急救助の拠点となる災害医療施設や避難所等の救済施設となる機能強化を図ることとしている。施設内の機能として、ヘリポートや非常用発電機、耐震型受水槽、備蓄倉庫などが備わっており、いざという時のため200人分の食料品や生活用品等を確保している。

**【意見】** 防災道の駅としての機能を拡充するため、協議会が設立されて既に数年経過しているが、進捗は十分に進んでいない。今後は、防災道の駅に対する町としての位置付けについて、国、県とも十分協議し、推進協議会での意見提言をする必要がある。また、防災道の駅として選定された際に防災訓練のサポートを受けられるとの事だったが、まだ一度も訓練が実施されていない。災害が発生した際には、対策本部としての役割を確実に果たされるよう、体制整備をされたい。町は、町民に対して道の駅が防災道の駅である事を認識して貰う必要がある。そして、災害発生時には、道の駅がどの様に機能するかを広く周知する必要がある。地方自治体である町は、住民だけでなく企業、団体も含まれることから、その全てに防災意識の高揚や防災計画を示していただきたい。



ヘリポート

## 経済厚生常任委員会

## 農業経営の現状と令和5年猛暑の影響

**【概要】** 本町の農業は水稲が基幹作物であるが全国的な人口減少、食の多様化による米離れが止まらず、主食用米の需要量は年々減少している。米価は新型コロナウイルス感染症の影響による主食用米の消費量の落ち込みなどを原因として過剰在庫及び米余りにより、大幅に下落したが現在は回復傾向にある。また、農業経営に占める農業機械等に係る必要経費は、世界的インフレに伴う資材等の価格高騰、先進技術を活用した農業機械の整備による経費の増大など、年々増加している状況である。

町では、各関係機関と協力し、持続的に農業経営を安定・発展させるために取り組みを進めている。次に、令和5年猛暑の農業への影響について、水稲は一等米比率が令和4年から令和5年はマイナス2.8ポイント低下したが、会津管内全域と比較すると被害は少ない状況であった。トマトは8月下旬から高温により着色が促進され軟化玉が例年より多く発生し、9月以降も着果不良等の被害を受け、出荷量が減少した。そばは、高温のため花粉発芽が悪く収量が低下した。



**【意見】** 天候不順や物価高騰、昨今の景気等の影響を受けている農業に対して町として取り組みを進めているがより一層の支援を望みたい。農業者への支援として新規就農者に対して国や県、町単独の支援があるが、現状のニーズにあった支援の拡充等が必要だと考える。本町として新規就農の対して他市町村との差別化、農業経営者の年間を通じた収入の安定化などの方策が必要と考える。町外の方の新規就農の相談が町に直接される場合でも、県の窓口を経由する流れになっているが、就農の相談や移住支援窓口を各課横断で整備することで、農業部門以外の情報も提供でき、移住支援にもつながると考える。